



アート企画

あたびとんでゆけ

— 続編 —

「つくる・集まる・繋がっていく」プロジェクト

— 「たんぽぽの綿毛」を展示 —

期間：10月15日(月)～10月28日(日)

場所：耳原総合病院

1階エントランス階段前スペース

主催：社会医療法人同仁会

協賛：山陽製紙株式会社

後援：社会福祉法人 ひまわり会

(耳原総合病院アートディレクター

室野 愛子)

お待たせしました！
3月と4月に行いました「たんぽぽの綿毛 ワークショップ」で皆さんに作っていただいたたんぽぽの作品を、耳原総合病院の1階エントランス階段前スペースにて展示します。

「つくる・集まる・繋がっていく」プロジェクトとして、医療・介護スタッフ、患者さんや地域の

ぜひご覧ください



たんぽぽの綿毛ワークショップ

理事会報告

7月度理事会 (概要)

7月26日(木)午後6時から理事21名、監事2名の出席で、第11回理事会が、社会医療法人同仁会本部3階会議室で開催されました。

理事長開会あいさつのおと、専務理事より会務報告、友の会活動、経営結果等の報告が行われ、出席理事全員が報告及び協議事項について了承しました。

〈主な内容〉

① 拡大常任理事会等の会務報告

7月21日にサービス付高齢者向け住宅ひまわりの家・蔵前(北花田)にて開催し、唯一無二の種が仕上がりました。

皆さんが思いを込めて作りあげてくださったたんぽぽ1本1本が、造形作家の福家真紀さんの手によってどんなたんぽぽの集合体に仕上がるのか、ぜひ総合病院の1階エントランス階段前スペースでお確かめください。

② 健康友の会みみはら代表世話人会議報告

③ 6月経営結果と第1四半期決算についての報告

④ 協議・確認事項
・ 無料低額診療制度について、グループごとに制度の普及や活用の進め方について議論した

・ 評議員の解任と任命について
・ 耳原総合病院入院体制加算の選定療養費の徴収について
・ 人事の提案について
・ 泉州看護専門学校竣工式・内覧会について

耳原実費診療所創立60周年記念誌

60年のあゆみ

いのち輝け未来へ

その8

第3章

要求に応え多面的に発展、規模・内容を充実

1972年～1981年

(前号のつぎ)

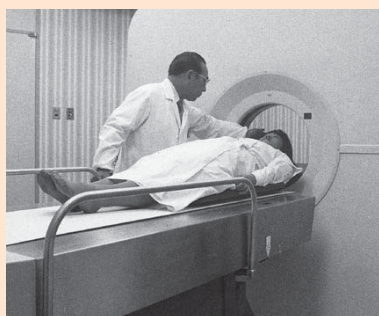
進む機能と規模の拡張そして医療・社会保障抑制の時代へ

1970年代は時代背景の後押しも受けながら同仁会は大きく発展し、総合病院建て替えを機に一層の医療機能・施設面の拡充が計画・実施されました。

耳原総合病院のベッド数は193床から216床(74年12月)、76年には245床、78年には255床へと増床され、その後も220～240床の規模が維持されました。

患者数も建て替え前の73年から76年の3年間で入院29%増・外来患者数29%増、収入は同時期に入院19.8%増・外来13.3%増と著しい伸びを見せました。

その他、人口透析床13台を有する透析室、76年に脳神経外科、神経内科の開設などが行われ、「重症・難病の比重が一層高くなり、いよいよ最終病院的(前頁※)様相を濃くしていき、私たちの取り



CT



腹部アンギオ

※発行当時の原文のまま掲載
©2018年

耳原旭ヶ丘会館内の歯科診療所
(第二次5ヶ年計画)



組む体制・診療レベルも特級のものが必要に」なっていました。

1977年から81年までの「第二次5ヶ年計画」では、施設数の増加と最後に13億円の投資が必要となった鳳病院移転計画が討議される中で、将来展望や借入金増大などでの度重なる議論が交わされました。こうした状況をふまえて、1979年9月「第二次5ヶ年計画と連動した第三次長計案」が発表され、医師を中心に「同仁会発展計画」についての激しい議論が進みました。

しかし間もなく、この飛躍を控へ、政治の右傾化と医療・社会保障抑制の80年代を迎えることとなります。

(つづく)